

(別記様式)

令和2年度 京都府立八幡支援学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階 **年度末評価**）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◆教育目標「つながり・チャレンジする子どもたち・学校」を学校経営の中で具現化・具体化し、発信する学校を目指す。</p> <p>◆共生社会の形成に貢献する「特色ある特別支援教育」を推進し、これからの特別支援教育において積極的な役割を果たす学校を目指す。</p> <p>◆全ての児童生徒が、社会の中でより良い生活を実現する力を獲得するために、「わかる」「できる」力を伸ばす教育を実践する学校を目指す。</p>	<p>○学校経営 10年間の成果と課題を再点検し、学校教育目標の見直しを行うことができた。 共生社会形成プロジェクト会議において、各学校課題項目を設定、改善策を検討し実施につなげることができた。 高等部において、普通科と専門学科の教育課程を明示することができた。</p> <p>○教育活動 新学習指導要領移行期間として、「地域に開かれた教育活動」を各学部単位で交流教育部を中心に積極的に展開することができた。</p>	<p>共生社会形成プロジェクトを継続し、各分掌や担当の活動をさらに充実発展させ、以下を重点目標とする。</p> <p>○学校経営 ①地域社会と連携し開かれた学校経営の推進 ②特別支援学校教員、教育公務員として、高い危機管理意識・人権意識、社会性、協調性と自己研鑽力及び専門性に基づいた教育に情熱をもった人材の育成 ③「つながり」を意識した学校内外との連携強化</p> <p>○教育活動 ①より良い授業づくりを追求し、授業公開月間で互い実践力を高める活動を充実させる。 ②地域関係機関（教育・医療・福祉・労働・行政）及び地域社会との連携を一層強めた教育活動、センター的機能の発揮により、地域におけるインクルーシブ教育の推進並びに共生社会の形成に貢献する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	・教育目標を具現化・具体化する、一体感のある学校経営の推進	・学校経営方針を各学部・分掌で具現化する一貫したマネジメントの実施	B	B	<p>コロナ禍の中、年度当初計画していたことができなくなることが多かったが、適宜判断しながら学校運営を行うことができた。</p> <p>また、学校予算については、計画的に活用し、職場環境の改善に向けて取り組むことができたが、働き方についてはさらなる意識付けが必要である。</p>
		・学校予算の適切且つ計画的な執行	B		
		・「働き方改革」を踏まえ職員が自分の心身の健康を大切に、同僚の心身の健康に気づかえる職場環境の形成（勤務実態調査の実施、総勤務時間縮減の取組の実施等）	B		
		・各学部において学習指導要領の実施と移行に向けた準備	B		
	・研修会等の計画的推進	・重点目標の達成及び各種ニーズに基づいた研修会の計画的実施（外部人材の積極的活用）	B		
		教職員、保護者の希望進路実現への意識を高める研修会等の実施（外部人材等を活用した職員研修の計画的実施 1回/年以上）	B		
		職員の人権意識、規範意識向上のための研修会の実施	A		
	・「地域支援センターやわた」の機能を生かした、地域における特別支援教育の推進	地域の学校等に特別支援教育力をつける特徴ある取組の実施	A		
		個別の指導計画等の作成につながる教育相談の実施	B		
		校内巡回相談員の積極的活用による組織的な支援の実施 幼稚園・保育園、高等学校を含む関係機関等との連携の強化	A B		

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会に開かれた学校経営の推進 ・学校評議員、保護者、地域住民等による学校評価を活用した学校経営の改善 ・桃山学園との確実且つタイムリーな組織的連携の実施 ・京都八幡高等学校、地域関連機関等との組織的連携の強化 	HP、学校だより等を活用した学校情報の積極的発信（HP 更新 15 回／月） アンケート等による学校の自己評価の実施及び公開（2 回／年 以上） 学校関係者評価委員会会議の開催（2 回／年 以上） 確実な日常的連携及び課題発生時の即時的連携と改善策実施 専任分掌による組織的連携の充実	B B A B B	B	公開の未実施を含め来校制限をお願いしなければならない中ではあったものの、学校便りや HP、連絡網等を通じた情報の提供は心がけた。 学校評議員会は 3 回開催し、学校運営に関わる評価や課題を聞く機会を持つことができた。 学校や様々な機関との連携は、常に意識していたが、充実には至らなかった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全を具体化する取組の推進 	避難訓練、緊急対応訓練の計画的実施（各年 2 回以上） 福祉避難所対応マニュアルの検討 医療的ケア安全委員会の機能を活用した適正なケアの実施 児童生徒一人一人の人権を大切にす取組の推進（いじめ対策委員会による調査 2 回／年） 教具等の安全点検の組織的な実施（7 回／年 以上） ヒヤリハット事象等の即時共有と教訓化	A C B A B B	B	計画していた訓練等は実施できたものの、対応マニュアル、いじめ対策委員会など、他機関との連携や外部人材等の活用を考える必要がある。 医療的ケアに関わっては、安全な実施を基本に行っている。ただ、医療的ケアやヒヤリハット情報を、注意喚起も含め全校に周知していく方法をさらに考える必要がある。
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等を合わせた指導を中心とし、教科別の指導、領域別の指導と関連づけた特色ある教育課程の編成・実施 ・社会とのつながりを大切に「社会に開かれた教育課程」に基づく実践の積極的展開 ・児童生徒一人一人が「つながり・挑戦する」力を身に付ける指導の推進 	学部単位及び全校での授業研究会の実施（目的に応じた外部専門家の活用） 授業に生かせる情報収集と学部・全校での情報の共有 つながりを意識した地域社会での積極的な実践展開 ニーズに基づく居住地校交流、インクルーシブ交流及び学校間交流の計画的な実施	B B B B	B B	学校内では学部を中心に、京都府の研究課題を視野に入れた研修を重ねることができた。ただ、全体での研究等はコロナ禍の中では難しく、学部単位が中心となったしまった。 居住地校交流はできなかったが、学校間や地域との交流は限られた回数にしぼったり、リモートでの開催等へ変更したりするなど、工夫をしながら、つながりを継続することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の希望進路の実現 ・全教職員による希望進路の実現に向けた取組の推進 	組織的な進路指導による高等部 3 年生全員の希望進路の実現 関係機関と連携した生徒の希望に相応した企業開拓の実施 計画的組織的な全校的進路指導の実施 全校保護者への進路情報のタイムリーな提供及びニーズの掘り起こし	B B B C	B	コロナ禍の中、例年通りの進路指導は行うことはできなかった。特に、職場実習は計画した日程で行うことができず、進路実現に向けた取り組みが例年より遅くなった。 企業開拓や関係機関との連携は意識して行い、情報を提供することはできた。

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の状況ではあるが、安全面を注意しながら工夫した取り組みを行っている。 ・学校環境の整備については常に心がける必要がある。来校した方たちがどのような印象を持つかは、日頃の心がけによるところが多い。 ・ICT は今の時代には大切なツールではあるが、コミュニケーションの大切さについても児童生徒に教え続けてほしい。 ・不登校児童生徒の背後にあることについてしっかりと分析を行い、支援学校だからこそ取り組めることを考えてほしい。 ・学校アンケートでいただいた内容を真摯に受け止め、改善点について報告する機会を設けることが次のステップにつながる。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティースクールの準備・開設を行い、様々な分野からの意見を集約し、学校運営に反映する。 ・コロナウィルス感染症対策の継続と「新しい生活様式」を実践する。 ・教務部と連携したプロジェクト会議を行い、新学習指導要領・GIGA スクール構想の実践に向けた取組を行う。